ミロンガ・コンサート報告

宍戸　和郎

アルゼンチン大使館や当協会も後援者に名を連ねるミロンガ・コンサートが、去る 11 月 22 日土曜日に開催されましたので、ご報告します。出演者は、世界的タンゴ歌手である大御所アルベルト・ビアンコ氏。そして、海外でも活躍する日本を代表するタンゴ歌手、ロベルト・杉浦氏（両氏のプロフィールは別紙に詳しい）。杉浦氏は、今年 6 月の協会懇親会（@大使公邸）でもその美声を披露してくれました。

会場である東医健保会館の大広間は、舞台はなく、フラットな空間です。ミロンガ・コンサートということで、多くのタンゴダンス愛好カップルが集結。二人のスターの歌唱に合わせて踊るという贅沢な趣向です。

テンポーネ駐日大使も姿を見せ、当協会からは永井理事長他が参加しました。

踊らない観客のための席も設けられましたが、舞台がないので、世界的シンガーの歌がすぐ目の前で聞ける形でした。休憩をはさんで 2 時間。円熟と迫力のパフォーマンスは、熱狂の内に終演となりました。

アルベルト・ビアンコ氏

ロベルト・杉浦氏

テンポーネ大使と

（ししど　かずろう：当協会常務理事）

アルベルト・ビアンコ Alberto Bianco (Vo)

1980年代以降、タンゴ界の重鎮たちと共演しアルゼンチンタンゴの伝統を支えてきた名歌手の一人として現在、アルゼンチン国内及び世界で活躍を続ける「スター歌手」の名詞にふさわしい大御所である。幼少期からタンゴの世界に親しみ、弱冠13歳でタンゲリア(タンゴのライブハウス)で歌手デビュー。15歳で人気テレビ番組「グランデス・バローレス・デル・タンゴ」の歌謡コンテストで2位を勝ち取る。19歳で巨匠マリアーノ・モーレスの楽団に抜擢され、4年間世界中を回り公演を行う。その後は「グランデス・バローレス」のレギュラーとして出演しながら、アティリオ・スタンポーネ(ピアノ)との5年間のツアー、フリオ・ボッカの主催するダンス・ショー「ボッカ・タンゴ」への2年に渡る出演などキャリアを積む。日本には12　回訪れ、それぞれホセ・コランジェロ楽団、カルロス・ブオーノ楽団、ロス・インディオス・タクナウ、ピピ・ピアソラ等の著名アーティストらと共演した。また歌手としての活動のほか、長年の経験とタンゴへの深い見識を活かし、世界中で聞くことのできるアルゼンチンのラジオ番組であるLa2　por　4(ドス・ポル・クアトロ)の中にある彼自身の番組　Tangomia(タン..ゴミーア)"においてアルゼンチンタンゴの情報を発信し続けている。ブエノス・アイレスにあるアルゼンチンタンゴの世界的な老舗である「Galla　Tango　Show(ガラ・タンゴ・ショー)」には１６年間在籍をして活動を続けている。そして今年２０２５年度は6月にブラジルで開催された「Uma Noite en Buenos Aires」という名物タンゴショーへ、カルロス・ブオーノ楽団と共に出演して大好評を得たが為に、8月に再びブラジルでの再演が決定しブラジルへも１４回訪れていることになる。同6月には、アフリカ共和国の一つであるアランゴ共和国建国50周年を記念した祭典へタンゴ歌手として招待され歌った。

ロベルト・杉浦(Vo)

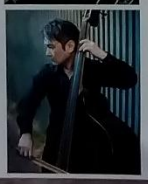
1993年アルゼンチンへ渡り大御所タンゴ歌手ロベルト・ルフィーノに認められ"ロベルト"の名を与えられる。
1997年バンドネオン奏者にはネストル・マルコーニ、バイオリン奏者にはアストル・ピアソラと共に活動を続けてきたアントニオ・アグリらを迎え、タンゴのCD「ロベルト・杉浦/レメンブランサ」をリリース。
1998年より拠点をプエルト・リコに移し、ボレロ歌手としてラテンアメリカ諸国(コロンビア、キューバ、プエルト・リコ、メキシコ、ベネズエラ、パナマ、エクアドル)において各国を代表する世界的なボレロ歌手達と共演し、日本人ボレロ歌手としてこの時代を一世風靡した。
2000年、マイアミの大手エージェントと契約しアメリカに在住しながら、アメリカUNIVICION局のスペイン語圏の人々、約10億人が視聴する人気テレビ番組「Sabado Gigante(サバド・ヒガンテ)」にレギュラー出演しながら、ラテンアメリカ諸国のテレビ局において歌手とし、またコメディアンとしても活躍する。
2004年、コロール・タンゴ楽団と共演し、このときのライブ録音が「ColorTango Tolosa-Roberto Sugiura/Buenos Aires-Tokio」としてアルゼンチンでリリースされる。
2010年6月、ビクターエンタテインメントより、「ダメウンベソ」(阿木燿子作詞/アンドレス・デ・レオン作曲)をリリースし、日本でメジャーデビューを果たす。
2018年と2019年、アルゼンチン及びコロンビアの両国に滞在し、タンゴとボレロのコンサートを行い南米での活動を再開する。
2024年、スペインのテレビ番組「Adivina　quehago」に日本人タンゴ歌手として出演した。その後アルゼンチンへ渡り数々のコンサートやラジオに出演すると同時に、「2024年度国際的実績に対するプラチナ・マガルディ賞」を受賞した。
2025年、アルゼンチンでのステージを続けながら、同時に何度も来日している現在のタンゴの大御所のバンドネオン奏者、ファビオ・ハーゲル率いる"Fabio Hager Sxteto(ファビオ・ハーゲル・セステート)"とのレコーディングを終えて帰国し、その音源は今年末に発表される予定。
8月にはメキシコで開催される現在世界一規模のボレロ国際フェスティバルに日本を代表するボレロ歌手として招待され、ステージとテレビに出演した。

青木菜穂子 (Pf)

東京都出身。武蔵野音楽大学ピアノ科卒業後アルゼンチンに渡り、ニコラス・レデスマに師事。2年間現地の市立楽団「オルケスタ・エスクエラ・デ・タンゴ」のピアニストとしてTVやラジオ等数々の場で演奏。 帰国後自己のグループを率いて活動しその後も度々渡亜。 ブエノスアイレスやチリでのフェスティバル、アメリカのバレンタンゴ祭、また世界各国から10人のピアニストを集めたバンクーバーでの10グランズ・ピアノコンサートに2年続けて招聘、その他フランス・ポーランド・韓国・チェコ共和国、北欧等様々な音楽祭に出演。 これまでにリーダーアルバムを含めた自己作品を8枚リリース。 演劇や映画・ダンスの音楽にも関わる。数多くの国内外のアーティストと共演し作編曲にも力を注ぐ。現在は『Celeste Septet『Cuarteto Confeito』主宰、他数々のグループに参加力強さと繊細さをあわせも鍵盤で定評を得ている。

早川　純 (Bn)

東京芸術大学音楽部学理科卒業。ジェヌビリエ音楽院ジャズＤＥＭを満場一致の一位で取得。Neo Tangoユニット「Tango-jack]等 様々なプロジェクトを主宰する。2013年ドイツのクリンゲンタールで行われた国際バンドネオン・コンクールで優勝を機に渡仏。J.Jモサリーニ氏にバンドネオンを師事した。同時にパリを拠点としてヨーロッパ各地で精力的に演奏活動を展開。現在は日本を拠点として演奏家・作曲家としてバンドネオン及びタンゴの可能性を独自のスタイルで追及。 2019年にはバンドネオンソロによるヨーロッパ・ツアーを行う。2022年度イタリア・サルデーニャ島での世界バンドネオオンコンペティシォンで優勝をはたし世界的に知名度が拡散している。



西嶋　徹 (Cb)11月13日のみ出演

1973年、東京生まれ。 5歳よりヴァイオリンを始め、高校の頃ベースを手にする。ジャズとアルゼンチンタンゴを軸に、これまで綾戸智恵、小野リサ、カルメンマキ、小松亮太、葉加瀬太郎、Pablo Zieglerなど、多くのアーティストのレコーディングやコンサートに参加。その他数多くの舞台やミュージカル作品にも参加。現在は、三枝伸太郎Orquesta de la Esperanza、鬼怒無月Quinteto、大柴拓Ensemble para Frores、吉田篤貴EMOstrings、岩川光trio、喜多直毅trio、西山瞳trioなどのグループに参加し、主にライブシーンを中心にジャンルを超えた幅広い分野で活動している。2014年には、ピアニスト林正樹と共にアルバム「El retratador」をリリース、2018年にはベースソロアルバム「Phenomenology」をリリース。2021年には、藤本一馬(gt)、栗林すみれ(pf)、福盛進也(dr)とのグループRemboatoでアルバム「星を漕ぐもの」をリリース。2024年、自己のリーダープロジェクトとして蒼波花音(sax)、遠藤ふみ(pf)、と共にアルバム「幽けき刻」をリリース